平成29年11月１日発行（毎月１回１日発行）通巻第639号

林業福島

No. 639

題字　公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長　齋藤卓夫

11
2017

監　　修■福島県農林水産部
表紙の写真■巨木に負けない

丸太合わせ輪切り

チェンソー技術向上に向けて

林業・木材製造業労災防止協会福島県支部
支部長　平　子　作　麿

当協会が伐採工事安全アドバイザー業務を㈱ユアテック福島支社から受託して三年目になり、配電線の支障となる立木を安全に伐採する技術的指導を現場で行っています。

チェンソーで立木を伐採する点では通常の伐倒と同じですが、異なる点は枝を払い・断幹した俗に言う欠頂木を作り狙ったところに倒すところです。重心移動が難しく倒すのに苦労します。

さて、㈱ユアテック福島支社福島配電部長からチェーンソーチャンピオンシップ競技会の放映を見て、ぜひ技能向上のため競技会を実施したいと申し入れがあり、いろいろ工夫し九月二七日(水)にユアテック協力会福島支社配電部会の主催で伐採技能競技大会を開催しましたので紹介します。

競技種目は五種目（ソーチェーン脱着、樹木の伐倒、丸太合わせ輪切り、接地丸太輪切り、枝払い）で、協力会社十五社のうち、八社から三二名が参加しました。ソーチェーン脱着は三二名全員、それ以外は各自得意とする種目一つにエントリーし、それぞれの腕前をスピードより安全と技術を第一に審査しました。競技状況は写真のとおりです。

実施して感じたことは、伐倒に際し大切な働きをするツルが適正に残されていない、会合線に平行に追い口切りができていないことでした。これは、林業の現場でも数多くみられる状況です。自分の技術を過信せず注意をしてほしいと思います。

反省会の席上で、「緊張して持っている技術が発揮できなかったが、いい体験となった。」、「他人のやり方・良い点を今後の作業に取り入れたい。」など前向きな意見が出され、アドバイザーとして、うれしい気持ちになりました。

事業主の皆さん、日々、従業員の労働災害防止・伐木技能向上に努め安全な作業をお願いします。

《もくじ》

とびら
チェンソー技術向上に向けて
　林業・木材製造業労災防止協会福島県支部
　支部長　平子　作麿…… 1
第69回全国植樹祭の参加者を募集しています… 2
林業研究センターだより…… 3～4
福島県林業労働力確保支援センターだより … 5
企業の森林づくり…… 6
協和木材㈱新庄工場の視察研修…… 7
普及指導員通信…… 8
水源林整備事務所だより…… 9
苗協だより…… 10
「自然に親しむ」…… 11
木材市況・ふくしま東西南北…… 12
はなしのひろば・お知らせコーナー…… 13

第69回全国植樹祭の参加者を募集しています。

第69回全国植樹祭福島県実行委員会事務局
（福島県農林水産部全国植樹祭推進室内）

先月号に引き続き、第69回全国植樹祭の参加者募集についてご案内いたします。

参加者に選ばれた方は、南相馬市の会場で行われる、式典行事や記念植樹に参加できます。式典行事では、天皇皇后両陛下によるお手植え・お手播きが行われます。また、福島の復興をテーマとしたアトラクションなどが行われます。記念植樹では、東日本大震災による津波で甚大な被害を受けた海岸防災林を再生するために、海岸防災林に適した樹種のクロマツやコナラなどを植樹します。

応募方法は、ＨＰでの電子申請、または、応募用紙による郵送（持参）での申込みとなります。申込締切は、平成二九年十一月三〇日(木)です。

応募資格は、福島県内に在住している、平成三〇年四月一日現在で満十八歳以上（グループ・家族で応募する場合は満六歳以上）の方が対象となります。同日現在十八歳未満の方の参加には、保護者の承諾が必要です。

募集人数は、約一、五〇〇人です。応募者多数の場合は、抽選により参加者を決定します。

なお、当選した方には平成三〇年一月頃から、結果を通知し、参加の意思確認を再度実施します。この際、確認に応じていただけない場合は、当選が無効となりますので、ご注意ください。

その他応募に関する詳細は、第69回全国植樹祭のＨＰで公開している応募ガイドをご覧ください。
多くの皆様の応募をお待ちしております。

植樹祭に向け様々な催しを準備しています！

～木製プランターカバー製作体験～

全国植樹祭の会場を彩る木製プランターカバー。大会当日は、県内の高校生が育てた花を飾り招待者をおもてなしします。

～メッセージのぼり旗への書き込み募集中～

全国植樹祭の招待者を歓迎するために会場に展示するのぼり旗。おもてなしのメッセージをぜひ書いてください。

11月11日(土)開催の、第15回うつくしま育樹祭で体験できます！

福島県林業研究センターだより

タケノコの放射性Cs低減手法の検討について

相馬市日立木の試験地で発生したタケノコ

福島県林業研究センター
林産資源部　齋　藤　諒　次

１．はじめに

県のモニタリングデータによると、野生タケノコの放射性セシウム（Cs―１３４とCs―１３７、以下「放射性Cs」という。）濃度は年々減少しており、平成二九年度では約七割の野生タケノコが検出下限値以下という結果でした。しかし、十月現在、県内の二二市町村で出荷制限、五町村で出荷自粛が続いています。そのため、早期の出荷制限解除が望まれます。

農地での作物の栽培では、放射性Cs抑制対策としてカリウムを施用することが有効だとされています。しかしカリウムの施用を含め、耕耘できない竹林におけるタケノコの放射性Cs低減に有効な施業方法は未だ明らかになっていません。そこで、タケノコの放射性Cs濃度低減を目的に、当センターで行ってきた調査内容について紹介します。

まず、二〇一一年から二〇一三年にかけて、相馬市のモウソウチク林内において放射性Csの汚染分布を調査しました。内容については、林業福島第五九九号で報告していますが、落葉層、土壌表面とタケ稈に高濃度で放射性Csが分布していることが分かりました。

２．今回の調査内容等

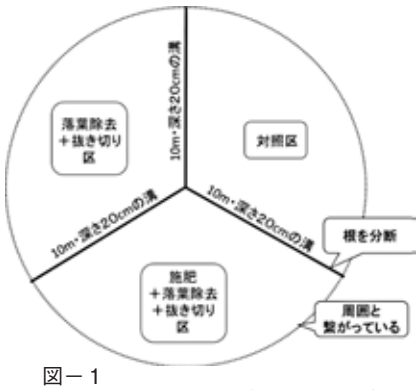
⑴ 施業によるタケノコの放射性Cs濃度の低減効果の調査

【目　的】

以前に実施した竹林内における放射性Csの汚染分布調査で高濃度に蓄積されている部位が判明したことから、タケ地上部を抜き切り等の施業により積極的に除去し、タケノコの放射性Cs濃度を低減できるか試験を行いました。また、土壌からのセシウム吸収抑制効果が期待されるカリウムを施用しました。

【実験方法】

相馬市日立木のモウソウチク林を調査地としました。二〇一一年十二月に試験地内に半径一〇メートルの円を設定し、溝掘りによって分断した三つの扇型の試験区を作成しました。このうち一区で落葉除去と抜き切りを実施（落葉除去・抜き切り区）、他の一区ではそれらの施業に加えてケイ酸カリの散布を実施（施肥・落葉除去・抜き切り区）、残りの一区を無施業の対照区としました（図―１）。落葉除去と施肥の施業は二〇一二年、二〇一三年の十二月にも繰り返し実施しました。二〇一二年から二〇一六年にかけて、毎春に各試験区からタケノコを採取し放射性Cs濃度を測定しました。



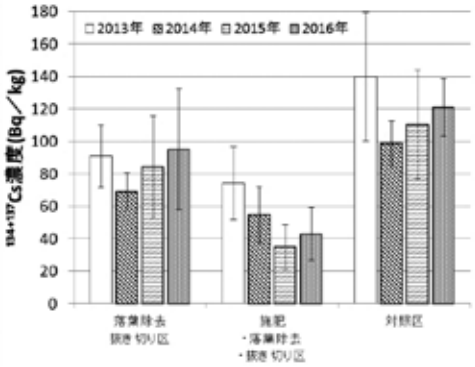
図－１
相馬試験地の模式図（2011年設定）

【結果及び考察】

二〇一二年に採取したタケノコの放射性Cs濃度は、試験区間で施業による差が見られませんでしたが、二〇一三年に採取したタケノコは、対照区に比べて施業を行った二つの区で低い結果でした。二〇一四年から二〇一六年に採取したタケノコの放射性Csの濃度についても、二〇一三年に採取したタケノコと同様に対照区に比べて施業を行った二つの区で低い結果でした（図―２）。

この試験の結果から、どの施業がタケノコの放射性Cs低減に有効であったのかは不明ですが、施業によってタケノコの放射性Cs濃度を低減できる可能性が示されました。

また、タケノコの放射性Cs濃度は、どの試験区においても一度減少した後に増加がみられました。原因は特定できていませんが、根からの放射性Cs吸収が起きていることが可能性の一つとして考えられました（図―２）。



図－２　各試験区のタケノコの放射性Cs濃度推移

(2) タケノコの放射性Cs吸収実態の調査

【目　的】

根から放射性Csが吸収されるとすれば、土壌中の放射性Cs濃度の分布に応じてタケノコの放射性Cs濃度も変わるのではないかという仮説をもとに、根からの放射性Cs吸収実態を把握するため、同一竹林内におけるタケノコの汚染状況を調査しました。

【実験方法】

福島市松川地区の南北に帯状に広がるモウソウチク林を調査地としました（写真―１）。この竹林は、北側一〇メートル範囲は二〇一三年に落葉層除去が実施され（落葉層除去区域）、また、南側約五メートル範囲は二〇一四年まで自主除染の際の仮置き場として利用されたことから土壌が汚染されています（汚染区域）。このため、同じ竹林の中で汚染の度合いが異なる区域が存在しています（図―３）。

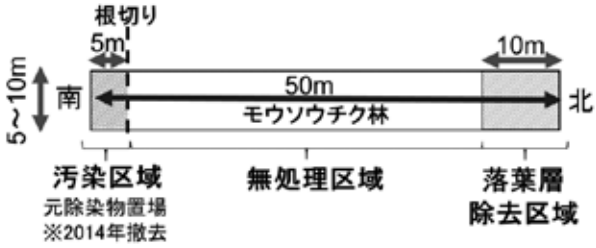
二〇一五年及び二〇一六年の春に試験地からタケノコを採取し、二〇一六年の十二月に土壌表層を採取して放射性Cs濃度を測定しました。また、汚染区域から無処理区域への地下茎を介した放射性Cs移動の可能性を排除するため、二〇一六年の春に汚染区域を根切りによって分断し、二〇一七年春にタケノコを採取して放射性Cs濃度を測定しました。

写真－１　福島試験地の竹林全体

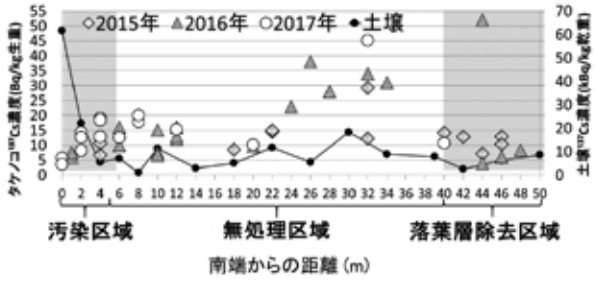
【結　果】

土壌表層の放射性Cs濃度は汚染区域で高く（一七～五〇kBq／kg・dry）、それ以外では二～一五kBq／kg・dryでした（図―４）。しかし、タケノコの放射性Cs濃度は土壌の放射性Cs濃度の分布と異なっており、汚染区域よりむしろ無処理区域の一部で高くなる傾向が見られました。

今回の試験では、土壌の放射性Cs濃度とタケノコの放射性Cs濃度との関係は見られませんでした。なお、汚染区域以外で発生したタケノコの放射性Cs濃度が汚染区域で発生したものより高くなる結果が得られたことから、タケノコの放射性Cs吸収には土壌の放射性Cs濃度以外の要因も関係していることが考えられました。



図－３　福島試験地の模式図



図－４
タケノコの放射性Cs濃度と土壌の放射性Cs濃度の分布

３．おわりに

土壌の放射性Cs濃度とタケノコの放射性Cs濃度が連動しない要因として、地下茎の分布や土壌中のカリウム量、可吸態Csの量等に違いがあったことが考えられます。今後、地下茎と周辺土壌及び土壌深度ごとの放射性Cs濃度の関連を検討するなど、タケノコの放射性Cs吸収実態や施業によるタケノコの放射性Cs低減効果を明らかにし、出荷制限の解除に向けて研究を進めていきたいと思います。

福島県林業労働力確保支援センターだより

高校生の刈払機教育を支援

森林・林業担い手育成事業で実施

講義を受ける生徒達

◎はじめに

平成二九年九月二五日、森林・林業担い手育成事業として、福島県立会津農林高等学校において同校森林環境科一年生二六名を対象に、「刈払機作業従事者安全教育」を開催しました。

◎支援センターの取組紹介

講義が始まる前の若干の時間をいただいて、高校生向けの「支援センターの取組」を次のとおり紹介しました。

[人材確保]

高校生の現地見学会、求職者への林業就業支援講習など、写真や映像で実施状況を説明しました。

[人材の育成]

「緑の雇用」の集合研修、林業人材育成研修、森林作業道作設研修、高性能林業機械実践研修など、キャリアアップにより定着を図るための各種研修を写真で紹介しました。

[事業主への雇用管理改善指導助言]

事業主に対して、就業者の確保・定着への助言・指導も行っていることを紹介しました。

刈払機の説明する各講師

◎安全衛生教育（室内）

林業・木材製造業労働災害防止協会福島県支部の講師の方々より、「刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育テキスト」を基に、刈払機の構造及び機能、機械や刃の選定等を学び、また、作業に関する知識では、安全に作業を行うためのショルダーベルト、服装や履き物、保護帽、耳栓やイヤーマフなどが実際に提示され、その重要性について各々説明をしました。

さらに、刈払機を使う時期に発生しやすい雷や熱中症への対策、蜂さされへの対策、その他危険な動植物への防備などの講義をしました。

また、点検及び整備に関する知識、災害事例として、刈刃によるスネ・モモ・足の甲の事故が多いこと、振動障害とその予防、労働安全衛生法などの関係法令について講義しました。

刈払機の説明する各講師

◎安全衛生教育（実技）

学校の敷地を実習場所として、四班に分かれて実技を行いました。

最初に、機械操作の手本として、実際に持ち方や足の運び方、機械の刈幅や安全な距離、大振りや往復刈りはしないこと、キックバックの防止などの説明を受けた後、生徒一人ひとりに対して、時間をかけた直接指導を行いました。

◎アンケートの結果から

安全教育終了後にアンケートを行いましたが、左表のとおりの回答と意見感想をいただきました。

◆刈払機の安全衛生教育を受けてみて、特に印象に残ったものは？（複数回答可）

□支援センターの取組紹介	１名
□刈払機の知識	10名
□振動障害の知識	５名
□災害事例	10名
□実技	11名

◆今後、森林・林業関係でやってほしいことは？

□チェーンソーの操作	６名
□林業現場の見学	３名
□製材工場・原木市場の見学	２名
□地元の林業者の講話	１名
□その他	無

■意見・感想等

○学校で教えてもらった以外のことが知れた
○今日の講習で教わったことを忘れず家の手伝いや将来に活用していきたいです
○刈り払い機は自分には関係ないなと思いましたが、その行動がどれほど大事なのかよくわかりました
○最初は簡単だと思っていたけれど、実際やってみたら難しかった
○みんな（知識は）頭には入っているので後は経験だと思います
○刈払機のきちんとしたやり方がわかった
○説明がよくてわかりやすかった
○わかりやすかったです
○知らないことがいっぱいあってすごく勉強になった
○刈払機講習会を受けて、ためになることがたくさんあり、進路のことも考えながら、今後の実技もやっていきたいです
○今日はありがとうございました。また今後に活かしていきたいです
○とても役に立った
○刈払機をちゃんと使えるようになりたい
○危険なことがたくさんあることがわかった
○はちは怖い
（一部表現を加除しています。ご了承ください。）

◎終わりに

事業を終えて、生徒の職業選択の「ひきだし」を増やしていただけるよう、林業のことをしっかり知ってもらう重要性を感じました。

「企業の森林（もり）づくり」

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会

近年企業の社会的責任（ＣＳＲ）に対する関心が高まり、環境保全活動等に取組む企業や団体等が増加していることから、県では社会貢献活動に関心の高い企業や団体等に積極的に森林づくり活動に参画していただくため、森林環境税を活用して活動支援を行っています。

平成二九年度は、当協会が県から「企業の森林（もり）づくり」活動業務の委託を受けて企業の活動を支援しています。

「イオンによる植樹活動」

本年度の活動の一つとして、公益財団法人イオン環境財団（以下、「イオン環境財団」という。）いわき市、福島県の三者協定の締結を支援し、いわき市錦町字須賀地内に「イオンの森」を設定しました。平成二九年九月十六日（土）にイオン環境財団の主催で植樹活動を実施しました。

植樹の参加者は、東京駅、水戸駅や宮城県、福島県内のイオン店からの専用バスで現地入りし、イオン関係者等を含め総勢七〇〇名の参加がありました。

植樹作業に先立ち、「森林（もり）とのきずなづくり植樹リレー」が行われ、当協会齋藤会長からイオン環境財団岡田理事長に木製プレートが引き継がれました。その後、主催者の岡田理事長から開会のあいさつ、来賓の畠福島県副知事、清水いわき市長のあいさつがありました。開会式終了後、参加者は各班に分かれ班のリーダーの指導のもと植樹に汗を流しました。植栽樹種は、クロマツ、ヤマザクラ、トベラ、ヤブツバキ、シャリンバイ、マテバシイの六種で、保育園児から大人まで幅広い参加があり、全員が協力して一生懸命作業に取組み、あっという間に用意された七、〇〇〇本を植えました。

植樹リレー

短冊記入

植樹風景

フラおじさんも登場

「トラック協会による植樹活動」

十月一日（日）、公益社団法人福島県トラック協会（以下「トラック協会」という。）は、相馬市磯部大洲地区海岸防災林で植樹活動を行いました。

この活動は、東日本大震災の津波で被災した相馬地区海岸防災林（相馬市磯部字大洲工区内）の再生に向けた活動に関する福島県、相馬市などとの間で締結した協定書に基づきトラック協会が、平成二九年度から平成三一年まで三年かけ〇・二（ヘクタール）の土地に抵抗性クロマツ約二、〇〇〇本の植樹に取り組むものです。

今回はトラック協会の会員や家族など六〇名が参加し、〇・〇四（ヘクタール）の土地に海岸林の再生を願い四〇〇本を植えました。

恒例の森林（もり）とのきずなづくり植樹リレーでは、当協会渡邉常務理事からトラック協会右近会長へヒノキの木製プレートが引き継がれました。

参加者は森への思いを短冊に書き込み、植樹活動を終えました。

植樹リレー

植樹活動

平成二一年度からスタートした「企業の森林（もり）づくり」は、現在までに十三件の協定が締結されていますが、本県の豊かな森林を保全するためにも、社会貢献活動に関心の高い多くの企業が森林づくり活動にご参加くださいますようお願いいたします。

協和木材㈱新庄工場の視察研修

福島県林業経営者協会

はじめに

福島県林業経営者協会は、昭和三八年に大規模林業経営者が集結して発足し、会員連携親睦のもと合理的・近代的な経営改善に努め、林業を進歩発展させることを目的に活動してきました。現在、情報誌「杣径（そまみち）」等の配布、視察研修、建議、県林業コンクールの協賛などの事業を行っています。

去る九月二〇日、山形県において協和木材㈱新庄工場の視察研修と意見交換会を実施したので、ご紹介します。

協和木材㈱新庄工場視察

協和木材㈱は佐川社長さんご自身が当協会の副会長であり、会員とは旧知の仲。本音で研修が進められました。

新庄市への進出は、東日本大震災を機に日本海側にも製造拠点を置き危険分散を図る必要性を痛感したことと、山形県最上地方は国有林材の供給見通しが立てられるうえ林業地帯としての下地を有することが決め手になったそうです。

地元からは、「山を買いたいと言う人が歩いているのは心強い。」と評価されているようです。

昨年九月に原木の入荷が始まり、既に原木消費量（一〇、〇〇〇立方メートル／月）、製品生産量（三、〇〇〇立方メートル／月）とも目標が達成されています。素材の二分の一が山形県内からの仕入れです。

従業員六五名は、地元新庄市の方が約半数であるほか周辺市町村から満遍なく採用しており、年代別では二〇歳代と三〇歳代が三分の一ずつを占めます。

意見交換

当協会の小野好郎会長から育林に携わる人材の確保など課題を提起し、技術向上や若い働き手が参入している川中・川下に学ぶ点を探ったり、他地域の取組から学ぶことや施策提言など、林業経営者同士ならではの討論から、ふくしま森林再生事業やスギ材の輸出まで、幅広い情報交換を行いました。

最後に、お隣金山町の日本林業経営者協会理事・岸三郎兵衛さん宅を訪ね白壁と杉板張りの家並みを散策して、研修会を閉じました。

協和木材㈱新庄工場の視察

当協会のこれから

十月十二、十三日に宮城県南三陸町で開催された「東北六県・新潟県林業経営者協会連絡協議会」において、平成三〇年度の同ブロック会議が本県で開催されることが決定しました。東日本大震災と原発事故後初めての本県開催となることから、これまでの支援に感謝を込めておもてなしするとともに、林業の復興や放射性物質に対する取組を観ていただけるよう準備したいと思います。

当協会は新規入会に広く扉を開いています。林業を経営する個人、法人のほか、会の趣旨に賛成し事業に協力しようとする方はいつでも会員になることが出来ます。林業経営の相談や研修、情報の入手など利点がありますので、事務局である福島県森林・林業・緑化協会にお気軽に声をかけてください。

意見交換

普及指導員通信

ふくしま森林再生事業の推進と人材育成

富岡林業指導所
林業普及指導員　半　田　盛　輝

富岡林業指導所は本年４月に富岡合同庁舎で業務を再開しました。

管内は双葉郡内８町村で、浪江町、富岡町の避難指示が本年３月末と４月１日に解除され、大熊町、双葉町を除く６町村がふるさとに帰還できる状態となりました。しかし、住民の帰還率は、川内村と広野町で８割程度、楢葉町と葛尾村で２～３割程度、浪江町と富岡町では１割未満となっています。

現在、管内の森林・林業活動は、原発事故により造林補助事業等の一般の森林整備が完全に停止しています。平成25年度から始まった「ふくしま森林再生事業」については、林地荒廃防止と森林の公益的機能の維持、帰還促進のための森林整備による地域環境整備等の必要性が認識され、順次取組が始まっており、早期に帰還できた川内村や広野町では平成27年度に森林整備業務が再開され、葛尾村や楢葉町においても本年度から全体計画策定に取り組むなど、ようやく森林・林業の再生にも目を向けることができる状況になってきたところです。「ふくしま森林再生事業」は、原発事故の影響が特に大きい双葉郡の町村に対して林業部門が貢献できる数少ない施策であり、森林整備の唯一のよりどころとなっていますが、全ての町村が取り組める状況とはなっていません。

当所においては、町村職員に対する事務処理に関する研修会や設計・積算等研修会を実施するとともに、順次、現場管理技術研修会や森林施業技術検討会等を実施して施行体制を確立していく計画としています。また、森林整備現場における安全作業の確保は事業の円滑な推進に欠くことができない問題との認識から、現場作業員の技術力向上と安全作業に対する意識の醸成に関する技術研修も実施しており、林業事業体の育成も支援しています。なお、取組間もない町村に対しては、町村の要望により設計書作成支援も行っており、早期の執行体制確立と円滑な事務処理の支援も実施しています。

「ふくしま森林再生事業」を推進する上では相馬管内との連携（気候や地形等が共通するため、森林整備目標や施業方法の共有）も重要と考えておりますので、人材育成に関する研修等は、相馬・双葉普及区合同で実施しているところです。町村、県一体となって事業を推進していくために、事業主体である町村職員の資質の向上はもとより、安全かつ効率的森林施業のできる林業事業体等の育成が重要であり、今後も多様な研修を開催していきたいと考えています。

市町村職員の設計積算研修会

現場作業員の安全伐倒技術研修会

福島水源林整備事務所だより

「椪積及び検知の現地検討会について」

国立研究開発法人
森林研究・整備機構森林整備センター
福島水源林整備事務所

平成二九年九月二八日に会津若松市の水源林造成事業地において開催された「森林整備センター関東整備局現地検討会」及び翌二九日に開催した分収造林推進会議の検討会について、紹介いたします。

九月二八日は、森林整備センター関東整備局管内の職員、ふくしま緑の森づくり公社職員、造林者等を交えた総勢六六名が参加いただきました。

内容は一　椪積作業、二　毎木検知、三　層積検知、四　長伐期における施業指針の四項目で検討を行いました。

当日は朝から雨交じりの天候であり、午前中という限られた時間の中、各検討項目について、皆さんに熱心に取り組んでいただきました。

一の椪積作業では、椪積み箇所の選定、種類、作業中の留意点等を検討しました。二の毎木検知では、椪積された一般材丸太五〇本を各班毎に分かれ検知を行い、一般材として取り扱うべき素材であるかどうかを含め検討しました。もちろん五〇本の中には、検知作業から外すべき素材（トラップ）が紛れ込ませてあることは言うまでもありません。

三の層積検知については、あまり馴染みの無い検知方法ですが、低質材の検知ではよく用いられる方法です。今般、当センターでも低質材の検知作業を効率化するために用いられることとなりましたが、その作業内容をセンター職員と共に実践しました。二、三の検知作業では、各々の班での検知結果を踏まえた材価計算までを行いました。

四の長伐期における施業指針は、森林総合研究所（つくば市）の千葉幸弘研究コーディネータの講義がありました。

また、実務に併せて現場作業中に発生する労働災害についても、安全指導を含めた作業中の安全確認等、雨模様の天候の中、労働安全衛生に係る項目について認識を深めました。

雨の中での層積検知

雨の中の毎木検知

翌二九日の検討会は、平成二七年度に締結した「民有林における分収造林事業に関する覚書」により、福島県・ふくしま緑の森づくり公社・福島水源林整備事務所の三者が相互に連携し、森林整備・造林技術の研鑽を積む場として、前日に開催した検討会と同様（四の項目を除く。）に実践していただきました。

今後も、水源林造成事業が主導的立場で連携を推進し、森林整備センターの業務について、広く様々な林業関係者に理解していただく取組みとして継続的に開催し、地域に貢献していきたいと思います。

材価が計算できて一安心

苗協だより

「多雪地帯におけるコンテナ苗づくり研修成果報告」

福島県農林種苗農業協同組合

平成二九年九月三〇日～三一日の二日間、山形県森林研究研修センターと山形県真室川町の山形県山林種苗組合理事長橋本健一さんの苗畑を会場に、会津支部組合員五名による「多雪地帯におけるコンテナ苗づくりについて」研修を実施しましたので、その成果等を報告します。

会津支部は、平成二六年から会津地域と同じ積雪地域である秋田県男鹿市の黒澤事業所や岩手県住吉町吉田樹苗所を訪問し、コンテナ苗の試験的栽培に取り組んできました。

会津のコンテナ栽培方法は、三月に前年に採取した種子を準備し、四月～五月中旬までに苗畑に種をまき、日除け、散水、間引き、立ち枯れ・根腐れ等の防除を行い、雪中の状態で春を迎えます。翌年の三月下旬から苗畑から幼苗を掘り取り、準備したコンテナ容器に植え替えます。幼苗を移植したコンテナは、露地に並べ発根を促し、約一ケ月後コンテナを露地からトレーに上げ、根切を行い育苗します。そして九月中旬まで、散水と根腐れに注意し苗長三五センチメートル上、根元径九ミリメートル上の二年生三号苗を育成します。できたコンテナ苗は、当年秋と次年春の山行き苗となります。

種子から数えると三年目で初めて山に植える規格の苗木ができます。

多雪地帯での二年生三号苗の苗づくりは、積雪量と雪解け時期により左右されることから、安全で安定した経営を目指すには、簡易ハウスを準備する雪対策が大きな課題です。

山形県森林研究研修センター研修で学んだことは、

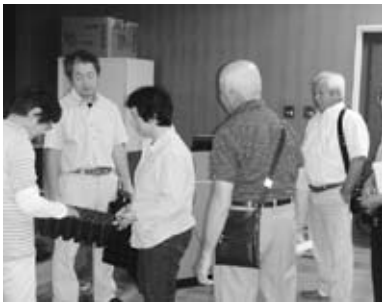
①山形県内五名のコンテナ苗生産者の苗長、根元径を調査し結果を組合員へ提供。

②コンテナ一五〇ccとスリット一五〇ccへの用土充填一倍から一・五培を比較、コンテナ一五〇cc一倍は生育不良。

③コンテナ苗も形状は重要、形状比H／D五〇～六〇が理想　七〇以下を目指す。

④一五〇cc五×八コンテナで一〇本・二〇本・三〇本・四〇本比較、一〇本区形状比高い。

ということでした。なお、少花粉種子は平成二三年から、雪害抵抗性種子は平成二五年から供給しているそうです。



森林資源利用部長
渡部公一さん講義の様子

二か所目の研修は、年間五〇万本の山行き苗を生産している山形県真室川町の橋本健一さんの苗畑において、豪雪地のコンテナ苗生産の課題について意見交換を行いました。

橋本さんの苗畑では、

①コンテナスギ少花粉苗木を生産、種子を平成二三年より山形県から供給。

②使用しているコンテナは、ＪＦＡ一五〇cc・スリット付一五〇cc、スリット付は乾燥しやすい。

③幼苗をコンテナに定植する工程は会津と同じ、定植後コンテナを露地に置く期間が短い。

④コンテナ苗の生育が思わしくない。コンテナを露地に置く期間が短いことも一要因。

⑤大半の苗は、秋に出荷されますが、春の苗も準備する必要があり、雪囲は重労働。

⑥コンテナ苗に発生する「ゼニゴケ」対策に「キレダー」を使用していることを学ぶとともに、サンプルをいただきました。

橋本ご夫妻との意見交換での共通話題は、後継者がいないことでした。

橋本さんは、「今頑張っている生産者任せでは、後継者の確保は困難、手塩に掛け三年目で一本一〇〇円の苗づくりは、一株で数回出荷するニラ栽培者と比べると不合理な作物であり、自分の代で店じまいするしかない。」とおっしゃり、後継者の課題は、会津支部も同様です。

五年先は見えない。「どうすっぺ。」

橋本ご夫妻と記念撮影
（苗畑には雑草はない。）

研修実施から一月が過ぎました。

会津地域では、秋植え用スギコンテナ苗の出荷に着手しています。

早期に研修成果を発揮できたのは、森林研究研修センターの渡部さんと橋本ご夫妻のおかげです。

ありがとうございました。

「自然に親しむ」

福島県の巨樹・名木 ―32―

棚倉城跡の大ケヤキ

樹木医　鈴木俊行

大ケヤキが生育する棚倉城跡は、元和八年（一六二二年）に棚倉藩に五万石で入封した丹羽長重が、寛永二年（一六二五年）に棚倉盆地の中央に鎮座していた近津明神（馬場都々古別神社）を現在の馬場地内に遷宮し、その境内地に江戸幕府の許可を得て棚倉城を築城した。長重は寛永四年（一六二七年）に白河藩に移封されたが、棚倉城は関東と東北の境にあることから親藩や譜代大名が治める城であった。そのため慶応四年（一八六八年）に勃発した戊辰戦争で板垣退助の率いる官軍八〇〇人の攻撃を受け、わずか一日で城下の一部と共に焼失した。棚倉城の異名の亀ヶ城は、濠に大亀が棲んでおり、浮かび上がって姿を見せると決まって殿様が転封になるという言い伝えによるという。大ケヤキは、内堀のほとり追手門から本丸に至る道筋に立っていて、築城以前の近津明神の御神木だったといわれている。築城の際に、この大ケヤキを見ながら登下城するよう演出したのだろうか。

本樹の樹種はケヤキ（Zelkova serrata）で、ニレ科ケヤキ属の落葉高木である。別名ツキ（槻）といわれ、葉の両面と葉柄に密に毛があるものをメゲヤキといい、日本海側に多いといわれている。ケヤキの分布は東アジアの一部と日本に分布し、日本では本州、四国、九州に分布する。箒を逆さにしたような樹形が美しく、公園や庭木、街路樹として植えられている。特に関東地方に多く、生育も良く寿命も長いので、天然記念物に指定されているものも多い。本樹は推定樹齢六〇〇年といわれ、昭和五一年（一九七六年）五月四日に県の天然記念物に、昭和五八年（一九八三年）二月十七日に県緑の文化財に登録されている。

本樹の樹高は二五・〇〇㍍で、幹周一〇・五〇㍍、根元周一二・七〇㍍の巨樹である。主幹の根元近くには大きなコブが重なり合うように幹を一周し、まるで大きなお相撲さんがあぐらをかいてどっしりと座っているようである。枝張りは東九・五〇㍍、西一〇・二〇㍍、南一一・七〇㍍、北六・八〇㍍で、近年枝枯れが著しく、樹冠は毎年少しずつ小さくなっており、樹勢の衰退が著しい状況となっている。樹勢回復治療も行われているが、回復の兆はあまり見られず、主幹の大きな開口部も痛々しく見える。

樹勢は衰退してきたが、歴史の生き証人である大ケヤキの話を聞きに来てはいかがだろうか。

「棚倉城跡の大ケヤキ」は、東白川郡棚倉町棚倉字城跡地内に生育している。生育地の棚倉城跡は、ＪＲ水郡線磐城棚倉駅から南へ約六〇〇㍍徒歩十分、国道一一八号（茨城街道）と県道六〇号（黒磯棚倉線）との交差点を東に市街地方面に約一・〇㌔㍍の場所にある。大ケヤキは、棚倉城跡の南東の端にあり、生育地の地形は平坦であるが、市街地化により根元周辺は道路で囲まれた小さなロータリー状になっている。

木材市況

七月の原木市場への入荷状況は、前月比一五パーセント減（前年比一七パーセント増）の二一、一七三立方メートルとなっている。

販売量は、前月比一七パーセント減（前年比一三パーセント増）の二〇、六四二立方メートルとなっている。

八月の価格は保合いとなっている。

素材の価格〈工場着価格〉（８月15日現在）

（単位：㎥当り千円）

区分		形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	中通り地方 当月	中通り地方 前月差	会津地方 当月	会津地方 前月差	浜通り地方 当月	浜通り地方 前月差	県平均 当月	県平均 前月差
一般用材	小	5～9	4.00	並	スギ	9（8～10）	0	（0～0）		9（8～9）	0	9（8～10）	0
		10～14		並		11（10～12）	0	9（9～9）	△2	11（11～11）	0	11（9～12）	0
	中	14～22	3.00	並	スギ	12（11～12）	1	（0～0）		12（12～12）	2	12（11～12）	1
				並	ヒノキ	19（15～24）	1	（0～0）		15（15～15）	0	17（15～24）	1
			6.00	並	スギ	16（15～17）	0	10（10～10）	△1	16（15～16）	0	15（10～17）	1
				並	ヒノキ	29（24～34）	0	（0～0）		21（18～24）	0	25（18～34）	0
		20～28	3.65	並	スギ	10（9～12）	△1	11（10～12）	1	11（11～11）	0	11（9～12）	0
			4.00	並		10（9～12）	△1	12（12～12）	1	11（11～11）	△1	11（9～12）	0
			4.00	並	アカマツ	9（7～11）	0	（0～0）		9（8～9）	0	9（7～11）	0
			1.80	並		8（5～10）	0	（0～0）		7（6～7）	0	7（5～10）	0
外材	米材（定尺）	30以上	10.00	並	米ツガ	（0～0）		（0～0）		28（28～28）	0	28（28～28）	0
				並	米マツ	（0～0）		27（27～27）	△3	29（28～29）	0	28（27～29）	△1
	北洋材（定尺）	28以下	3.80	並	エゾマツ	（0～0）		（0～0）		28（27～28）	0	28（27～28）	0
			4.00	並	アカマツ	（0～0）		（0～0）		25（25～25）	0	25（25～25）	0
				並	カラマツ	（0～0）		（0～0）		26（25～27）	1	26（25～27）	1
パルプ用材				並	マツ	6（6～6）	0	（0～0）		5（5～5）	0	6（5～6）	0
				並	広葉樹	9（9～9）	0	（0～0）		6（6～6）	0	8（6～9）	0

区分	形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	会津共販 当月	会津共販 前月差	いわき 当月	いわき 前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	7（6～8）	0	7（6～9）	0
	13～14		並	カラマツ	9（8～9）	0	8（7～8）	0
	16以上		並	カラマツ	13（13～13）	0	10（9～11）	0

注）１．前月差の△印は値下りを示す。
２．（ ）内は各地域の価格幅、（ ）外は各地域の平均的価格を示す。
３．一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
４．各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

ふくしま東西南北

白河藩主松平定信の妻

県南農林事務所　近藤仁志

約四〇年前の話である。K先生から「松平定信は白河藩に婿入りしたが、結婚相手は容姿が悪く、義父は定信との結婚を心配していた」という内容の話を聞いた。どうしてこのような話になったかは覚えていないが、教室内は笑い声があったように記憶している。

今回、原稿の依頼を受けて、この話に関して何か書けないかと思い、白河市歴史民俗資料館を訪問し話の真偽を聞いてみた。担当の方は不在であったが、後日二つの資料がメールで送られてきた。

一つは定信の自叙伝『宇下人言』で、その中に次のような下りがあった。

「六月の比にか婚をととのひぬ。治床（？）のかほよからねばむつまじからじとて父朝臣もわび給ふ」。現代語に訳せば「六月（旧暦）ごろ結婚した。義父（定邦朝臣）は娘（峯子）の容姿が悪いので夫婦仲に影響するだろうと定信に謝罪した。」と言うことであろうか。定信の書にこの下りがあることから、K先生の話は事実のようである。

また、もう一つの資料は『楽翁公伝』で、この書は渋沢栄一が定信（楽翁は定信の号）に関する資料をとりまとめ記述したものであるが、この中にも次のような下りがあった。

「夫人は定邦朝臣の女にして、名を峯子といふ。時に二十四、公より長ずること五歳にして、その容姿美しといふべからざりしを以て、両親はこうれい（夫婦の意）の如何をいたく憂えられたりしに、」。現代語に訳せば「定邦朝臣の娘である峯子は二四歳で定信より五歳年上であった。容姿は美しいとは言えず、両親は娘夫婦が仲良くやっていけるのか、非常に心配していた。」と言うことであろうか。

しかし、この文の続きには定信が美醜により親疎を分けるべきでないと発言したことに、夫人はその温情に感激し定信に心を込めてかしずいた、と書かれている。また、不幸にも夫人は二九歳で病気で亡くなるが、定信は病床に伏せる夫人を愛情深く看病し、その姿を見て涙しない者はおらず、夫人も定信の看病を喜び、感謝の言葉を述べた、とも書かれていることから、〝容姿〟がその後の生活で特に問題となることはなかったようである。

今回、当時の松平定信・妻・義父の心持ちを少し垣間見ることができたことは興味深かったが、四〇年前安易に笑ってしまったことを心なしか申し訳なく思ったのである。

はなしのひろば

愛

♪大きな栗の木の下で　あーなーたーとわーたーしぃ　仲良く遊びましょう♪もうすでに大学の写真サークルの例会が始まっているのに、君ちゃんは、おかまいなくピアノを弾いて歌っていた。聞けば、彼女は一週間後に教育実習を控えているという。

その内、ピアノ越しに彼女が「さあ、皆も一緒に歌いましょう。はい、立って」君ちゃんはもうすでに、井上先生であり、口髭の男子も含め、多少老けてはいたが、私達は児童になった。歌い終わると先生は「この歌の、あなたと私が仲良くするのに一番大切なことは何だと思う？大切なことは、この目ではなく、心の目で見ることだと思うの」口髭の児童が「心の目で見る大切なことって何ですか？」と聞いた。先生は、すぐに黒板に「愛」と書いた。よほど自分の内で大切にしてきたのだろう。書き終えてふっと溜息をついた。その後、彼女は、実習が終わっても「卒論が忙しくて」と例会には来なくなった。

しかし、その時、誰が彼女に起こった事態を予測できただろうか。今も忘れはしない。晩秋の深夜彼女が亡くなったことを知らされたのである。自死であった。

彼女が、ふる里広島へ戻る永久（とわ）の別れの日、時雨雲の雨脚に、時雨虹が懸り、その消え入りそうな淡い色彩が、まるで彼女の微かな別れの笑みのようだったが、ただただ悲しい光景だった。

あれから数十年の歳月が流れたが、終鳴期のコオロギの声を聞くと、君ちゃんの声と重なり何ともせつなくなる。（どうして逝ってしまったのだろう。君ちゃんが愛したあの彼は、今は幸せだろうか…）と。

「心の目で見なければ見えぬ大切なもの、それは愛」この言葉を心に、私はいつも冬へ向かう。

（都）

表紙の写真

「巨木に負けない」

第14回ふくしま森林・林業写真コンクール最優秀賞（県知事賞）
受賞者　柏舘　健さん（いわき市）
撮影場所：猪苗代町

編集　福島県
福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究・整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
発行　（福島市中町五番一八号県林業会館内）
発行人　水戸　典明
陽光社印刷株式会社
（定価　一〇八円）

お知らせコーナー

平成29年度治山・林道コンクールの結果について

平成29年10月４日、一般社団法人日本治山治水協会及び日本林道協会が主催する平成29年度治山林道コンクールの受賞者が次のとおり決定されました。

なお、表彰式は、平成29年11月30日（木）東京都「ホテルルポール麹町」で開催されます。

コンクール名	受賞区分	受賞者
第33回 民有林治山工事コンクール	一般社団法人 日本治山治水協会長賞	株式会社 海老名建設　小柴　芳郎
第18回 民有林治山木材使用工事コンクール	一般社団法人 日本治山治水協会長賞	相双農林事務所 森林林業部　林　雅士
第40回 林道維持管理コンクール	日本林道協会長賞	鮫川村長　大樂　勝弘
第33回 民有林林道工事コンクール	農林水産大臣賞	株式会社 大川原建設　大川原政昭
第18回 民有林林道木材使用工事コンクール	日本林道協会長賞	南会津農林事務所 森林林業部　須藤　佳祐

農林水産大臣賞を受賞された
森林居住環境（県・道）2702工事
（永井川前線）

第15回うつくしま育樹祭の開催　第69回全国植樹祭200日前記念イベント

植栽木の手入れや体験・交流のイベント等を通じて、緑や森林とふれあう大切さを感じていただくため、第15回うつくしま育樹祭を次のとおり開催します。

１．日　　時　平成29年11月11日（土）　10：30～14：30
※集合時間　８：45～９：45

２．場　　所　南相馬市原町区雫地区
（第69回全国植樹祭会場及び隣接地）
※集合場所　南相馬市「テクノアカデミー浜」ほか周辺施設駐車場
（会場に駐車場はありません。集合場所から会場へは無料シャトルバスで移動します。）

３．申込方法
お問い合わせ先までご連絡してください。

４．お問い合わせ先
うつくしま育樹祭実行委員会
（公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会緑化推進局）
TEL 024－524－1480　FAX 024－521－3246

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。

1 火災
山火事で受けた損害

2 風害
暴風による根返り、幹折れなどの損害

3 水害
豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害

4 雪害
大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害

5 干害
乾燥による枯死などの損害

6 凍害
凍結、寒風などによる枯死などの損害

7 潮害
潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害

8 噴火災
火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》
竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255㈹

または最寄りの森林組合

林業福島十一月号 通巻第六三九号
昭和四十二年二月二十四日第三種郵便物認可
平成二十九年十一月一日発行（毎月一回一日発行）
監修 福島県農林水産部
編集発行人 水戸 典明
発行所 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島市中町五番十八号 県林業会館内
定価一〇八円
年間購読料一、九〇〇円（税・送料込）

SCC GROUP

自然との調和

私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

野生獣類から大切な植栽木を守る
ヤシマレント

ヤマビル対策に
マリックスター（駆除剤）

蜂さされ防止
ハチノックL（巣退治）
ハチノックS（携帯用）

タケを駆除する
クロレートS

大切な日本の松を守る 住化グリーンの林業薬剤
ヤシマスミパイン乳剤
ヤシマスミパインMC
グリンガードNEO
パークサイドF
ヤシマNCS
モリエートマイクロカプセル
マツグリーン液剤2
マッケンジー

くん蒸用生分解性シート
与作シート（茶・白）
（折りたたみ式 専用キャリーバック使用）

竹・ササの防除に
クロレートS粒剤

アメシロなどの害虫防除殺虫剤
打ち込み上手

住化グリーン株式会社
本社 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町１番８号 TEL.03-6837-9422 FAX.03-6837-9423

効率良く快適に！ 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

機器はゼノアから

チッパシュレッダ

竹もOK！
SR3100
出力 18.4kW（質量1,330kg）
水冷ディーゼル
967634301
¥3,580,000(税抜)

ハンマナイフモア

ZHM1550
出力 27.5kW（質量1600kg）
967081901
¥5,860,000(税抜)

ZHM800
出力 7.4kW（質量230kg）
967088901
¥748,000(税抜)

ハスクバーナー・ゼノア㈱福島県代理店
㈲うねめ林業機械
TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の１